

公民館かながわ



とま 里都まち交流拠点（中井中央公園）



ピザ釜⇒

目次

平成30年度 生涯学習指導者研修 「公民館担当者コース」 事業報告	2・3
平成30年度 館長・公民館運営審議会 委員等研修会	4
第60回神奈川県公民館大会	5
わが館では	6・7
中井町井ノ口公民館 相模原市立東林公民館 座間市立東地区文化センター	
サークル紹介	7
『寒川拳（こぶし）の会』 （寒川町）	
第40回全国公民館研究集会 東京大会	8
表紙写真解説 『里都まち交流拠点』	8
編集後記	8

**平成30年度
生涯学習指導者研修
「公民館担当者コース」
事業報告**

平成30年度生涯学習指導者研修「公民館担当者コース」が、5月30日から11月28日までの間、計5回にわたり、「生涯学習・社会教育の地域拠点としての公民館のあり方と職員の能力の向上」をテーマに開催されました。

この研修は、県教育委員会と県公連との共催事業です。

今年度も、昨年度に引き続き、各教育事務所の社会教育主事によるアイスブレキングの講義と参加者交流を行いました。実際に活動を体験することで、アイスブレキングの手法を学ぶとともに、参加者同士が打ち解けて、その後の事例発表や情報交換が、和やかな雰囲気の中で、より活発なものになりました。

延べ169人の参加があり、どの回も、意欲的に話し合いに臨み、積極的にワークショップに励んでいる姿が見られました。

《第1回》5月30日(水)

会場 かながわ県民センター
○講義と意見交換「生涯学習・社会教育関係職員の果たすべき役割」

千葉大学名誉教授

長澤 成次 氏
○情報提供「地域学校協働活動の推進について」

県教育委員会生涯学習課主事
福士 徹也 氏

○講義とワークショップ「基礎から学ぶ事業計画の立て方」課題から出発するプログラム編成の手順」

明治大学大学院兼任講師
小山 紳一郎 氏



グループ討議の様子

《第2回A》6月13日(水)

会場 横須賀市本町
コミュニティセンター
○「即、学級・講座に使えるアイスブレキング」

湘南三浦教育事務所
社会教育主事兼指導主事

沖野 僚太郎 氏

県西教育事務所
社会教育主事兼指導主事

長山 武司 氏

○事例発表①「学習成果地域活用事業『まなびかんトコトン学校紙芝居編』担当者による具体的な事例発表」

公益財団法人
横須賀市生涯学習財団

○事例発表②「公民館事業の創出と関係機関等との連携による実践を中心」

綾瀬市立中央公民館長

○情報交換「事例発表を踏まえた公民館事業のふりかえり」

田中 恵吾 氏

《第2回B》6月28日(木)

会場 かながわ県民センター
○「即、学級・講座に使えるアイスブレキング」

県央教育事務所
社会教育主事兼指導主事

松山 愛 氏

中教育事務所
社会教育主事兼指導主事

永野 文 氏

○事例発表①「0歳からシニアまで『プラたち』で楽しく学ぼう」

川崎市高津市民館橋分館

分館長 山田 哲郎 氏

○事例発表②「地域力を活かし、あらゆる世代が集う公民館を目指して」

相模原市橋本公民館

館長代理 坪井 健次 氏
○情報交換「事例発表を踏まえた公民館事業のふりかえり」

《第3回》8月29日(水)

会場 かながわ県民センター
○情報提供「神奈川県公民館連絡協議会について」

県教育委員会生涯学習課
(県公連事務局)

副主幹兼社会教育主事

鈴木 智久 氏

○講義とワークショップ「広報活動と著作権」地域の記憶を記録する」

常磐大学教授 坂井 知志 氏

○講義とワークショップ「ロジカル・ライティングを使った広報の仕方」

株式会社ハーティネス
代表取締役 高橋 慈子 氏

《第4回》11月28日(水)

会場 県立図書館
○情報提供「PLANETかながわの紹介と活用について」

県立図書館

広報・生涯学習推進課副主幹 工藤 敏彦 氏

○講義と課題研究「施設運営に関する課題解決に向けて」

公益社団法人全国公民館連合会
事務局長 上村 忠男 氏

○情報提供「人生100歳時代の現状と課題」

県総合政策課主事

中村 友哉 氏

○人権講話とワークショップ「高齢者の地域活動参画に向けた職員への向き合い方」
公益財団法人

ダイヤ高齢社会研究財団
主任研究員 澤岡 詩野 氏

〈研修後のアンケートより〉

○講義と意見交換「生涯学習・社会教育関係職員の果たすべき役割」

「今日に至るまでの経緯を含めてお話ししてくださったので、課題や責務の重さを理解しやすかった。」
「公民館が置かれている状況がよく理解できました。国の動きにも注視しながら公民館本来の役割を果たしていけるよう努力していきたい。」

○情報提供「地域学校協働活動の推進について」

「公民館の運営委員との話の中で、地域と学校との協働について、とても積極的な話を聞いたばかりだったので、とても興味深く聞けた。」

○講義とワークショップ「基礎から学ぶ事業計画の立て方」課題から出発するプログラム編成の手順

「活動があったので理解が深まった。事業計画の立て方だけでなく、国際理解分野の話も聞いて良かった。」
「今後講座を企画する立場の人間として、利用者のニーズの考

え方、その達成への考え方など非常に勉強になりました。」

○「即、学級・講座に使えるアイズブレイキング」

「楽しみながら参加させていただきました。研修の初めにこのような企画があると場の雰囲気も良好になると思います。」

○事例発表

「講座の企画から、地域社会へ役立つまでのPDCAを知ることができ、大変参考になりました。」
「市民目線での学習ニーズ、地域課題の発見が大切であると思いました。」

○情報交換「事例発表を踏まえた公民館事業のふりかえり」

「各市町の課題や事業運営の工夫等を話し合うことができ、とても参考になりました。」
「それぞれ地域の特色が異なることから違った文化・悩みがあり、共有し合えたことで知識を深めることができました。」

○情報提供「神奈川県公民館連絡協議会について」

「地域住民の「つどう」「まなぶ」「むすぶ」について、公民館の活動の中で広報の大切さをもう一度考える機会になりました。」

○講義とワークショップ「広報活動と著作権」地域の記憶を記録する」

「今までまったく意識していなかった公民館の役割を認識することができました。」
「今」のデータを地域住民と協力して保存してい

なければならぬ理由がよくわかった。著作権や個人情報取り扱いなどはさらに気を付けていこうと思った。」

○講義とワークショップ「ロジカル・ライティングを使った広報の仕方」

「ワークショップ形式で、実際に書いたことで、ロジカル・ライティングが身についたと思う。」
「講義とワークショップを通して、情報をわかりやすく伝えるノウハウがわかり、とても参考になった。」
この講義を参考に、これからの実務に生かしたいと思います。」

○情報提供「PLANETかながわの紹介と活用について」

「とても有料的で、職務でも個人的にも利用させていただきたいと思いました。」
「他の市町村で実施している講座を参考にする際に、活用していきたいと思いました。」

○講義と課題研究「施設運営に関する課題解決に向けて」

「公民館の現状や課題について体系的に学ぶことができ、理解が深まった。」
「法令や公民館の歴史から指定管理制度や有料化など、現在の課題までとても分かりやすい説明で参考になりました。」

○情報提供「人生100歳時代の現状と課題」

「よく耳にする「人生100歳時代」について知ることができ、より公民館（社会教育）の大切さを

実感しました。」
「人生100歳時代への移行に向けてやるべきことのイメージをすることができました。」

○人権講話とワークショップ「高齢者の地域活動参画に向けた職員への向き合い方」

「実際におられる方のお話を聞いて、自分の地域に置き換えた時、とても身近な問題であると思いました。また、私のような職員の良い方向に変えられると思うと、しつかり勉強して考えていかなければと反省しました。」
「ワークショップを通して、公民館でやりた



発表している様子

平成30年度 館長・公民館運営審議会委員等研修会

「文部次官通牒公民館設置構想（昭和21年）
70年を経た今、公民館は何をめざすのか？」
「住民の学び・地域と学校との絆を深め、「地域創生」に貢献する公民館へ」

平成30年度館長・公民館運営審議会委員等研修会が、11月9日（金）に、山北町立生涯学習センター多目的ホールで開催されました。

前半の講演会では、近年頻発している「水害」への対策をテーマに、公民館が持つべき視点や必要な情報について講演をお願いしました。

後半の講演会では、災害時における避難場所としての機能が求められる公民館において、トイレの環境をいかに確保するかについて学びました。参加者は116名。

【講演】

「水害と私たちの暮らし〜自然環境と私たちの生活を守るためにできること〜」

中央大学 理工学部

教授 山田 正 氏

はじめに、土木工学に基づいた全国的な近年の豪雨災害の状況についてお話がありました。気候変動による雨量及び洪水の発生頻度が増加していることから、今や防災対策として激甚化を想定する必要があるというものです。そういった自然環境下に置かれる我々と

しては、いち早くまた、正確な情報を入手し、適切な対応を取ることが被害を最小限に抑えられる手立てであると力説されました。特に国土交通省が運用する通称「エックスバンド」という高性能気象レーダーでは、近年多発している線状降水帯の発生を一早く把握することが可能であり、自身が居住する地域の洪水発生状況をリアルタイムで確認することができるとからも、災害関連情報はまず自分から積極的に確保するべきとお話は、特に河川の近くにお住まいの方にとって、大変貴重なものであると感じました。



山田氏による講演

また、山間地域において、切り立った山肌よりも、なだらかな山肌の方が、土砂災害が生じやすい

といったこと等、地学に基づく各地域の立地の違いを理解した上で、都市計画を策定するべきであるとのご指摘もありました。

参加者の方からは、自治会活動への示唆となったとのご意見や、防災と街づくりを一体的に考える重要性を改めて認識できたとのご意見が寄せられました。

【講演】

「避難所におけるトイレの確保と管理」

特定非営利活動法人

日本トイレ研究所

代表理事 加藤 篤 氏

過去20数年間の水害で断水等によりトイレが使用できなくなってしまうということが毎回課題として挙げられているものの、全国的に認識が低い現状があるとお話がありました。水の確保といえど、水の確保が話題となることが多い一方で、避難所を長期間運営する際には、なるべく日常生活に近い状況を作り出す必要があり、それにはトイレの環境を整備することが真つ先に重要視されるべきとの指摘がなされました。

また、これまで蓄積された避難所でのデータでは、現実問題として、飲料水の支給を受けても、トイレが整わない限り、水分補給や食事を我慢する方が多いことが挙げられました。

普段とは異なる慣れない集団

生活を送らなければならぬことから、身体的な抵抗力が低下し、脱水、低体温などの症状を引き起こす他、場合によっては、心筋梗塞や脳梗塞等の重大な病気を発症する恐れがあるというお話がありました。

そうした中で、①水洗トイレは使えないため、施設に災害用トイレを確保しておくこと、②事前に携帯トイレ用の袋を用意しておくこと、③避難の経過に応じた切れ目のないトイレ環境を整備すること等、施設管理者として公民館が避難所となった際のトイレ対応計画策定の必要性を熱く語られていました。

参加された方には、地区避難所運営の訓練の際にもトイレに関する訓練は行っていたが、細かな問題点がより明確になった、実際の映像を交えてのお話に、非常に危機感を覚えたとのご意見が多く寄せられました。



加藤氏による講演

（公民館経営・研修部会）

第60回神奈川県公民館大会

テーマ

「公民館構想から70年を経た今、次の時代に求めていく公民館像とは」

「わたしの『できる』が、あなたの『できる』に。共に進もう、世代を超えて」

◇日時

平成31年1月18日(金)

13時00分～17時00分

◇会場

平塚市中央公民館大ホール

「これまでの公民館70年を踏まえながら、次の時代に求めていく公民館像を様々な世代の皆様と描いていきます。」という趣旨のもと盛大に開催されました。

◇アトラクション

大会参加者を歓迎するため、地元の小・中学校出身の幼な友達3人を中心に参加され、40年続けられているバンド「ハッピーマウンテン」による演奏



ハッピーマウンテンボーイズによる演奏

テンボーイズ」による心躍るような演奏が3曲行われました。

◇大会式典・表彰式

木下敬之会長の主催者あいさつ、平塚市教育委員会吉野雅裕教育長による会場あいさつの後、各種表彰が行われ、その後、平塚市落合克宏市長と神奈川県教育委員会教育局松井聡明生涯学習部長から御祝辞をいただきました。また、「みんなでおおう」では、県立平塚江南高等学校合唱部と会場にいる参加者が一緒になって「公民館の歌」を歌いました。

○神奈川県公民館連絡協議会表彰

【優良公民館表彰】

川崎市教育文化会館大師分館

相模原市立横山公民館

相模原市立光が丘公民館

平塚市立旭南公民館

厚木市立玉川公民館

厚木市立南毛利公民館

座間市立東地区文化センター

【職員等功績表彰】

安藤 咲枝(座間市立東地区文化センター)

【永年勤続表彰】

谷口 なぎさ(川崎市教育文化会館)

田島分館)

秋山 祐子(相模原市立大野台公民館)

小豆澤 透(同市立大野北公民館)

政木 清美(同市立橋本公民館)

西島 万里子(同市立城山公民館)

天羽 道子(同市立横山公民館)

藤野 圭太(同市立麻溝公民館)

北島 佳奈(同市立相武台公民館)

柳原 淳子(同市立相武台公民館)
浅羽 悦子(横須賀市北下浦コミュニティセンター)

阿藤 栄利(平塚市中央公民館)

古賀 加代子(藤沢市立六会公民館)

三雲 謠子(藤沢市立片瀬公民館)

古賀 安津美(藤沢市立明治公民館)

門田 壽津香(藤沢市立善行公民館)

平井 史子(藤沢市立善行公民館)

坪井 裕美(茅ヶ崎市立南湖公民館)

猪俣 武司(秦野市立西公民館)

片野 みち子(座間市立北地区文化センター)

センター)

新井 義明(綾瀬市立中央公民館)

有水 悦子(同市立寺尾いずみ会館)

岡村 新也(同市立寺尾いずみ会館)

橋本 由理子(同市立寺尾いずみ会館)

内山 保夫(愛川町文化会館)

◇基調講演

「公民館、そこは人が育つ拠点」

「社会教育施設としての公民館を改めて考える」

○学校法人聖学院大学

人文学部児童学科教授

神奈川県生涯学習審議会

副会長 小池 茂子 氏

基調講演では、公民館の活性化等についてアドバイスをいただきました。

「パネルディスカッション」

「公民館、次の70年」

「情報発信から考える。若者が行きたくなる公民館」

若者と公民館をつなぐための方策について、活発な意見交換が行われました。

「パネリスト」

学校法人聖学院大学人文学部

児童学科教授 小池 茂子 氏

東海大学理学部数学科 田中 夏喜 氏

平塚市立中原公民館 館長 加藤 清二郎 氏

平塚市立松が丘公民館 主事 大野 聡志 氏

平塚市立なでしこ公民館 主事 高橋 崇 氏

(コーディネーター)

平塚市社会教育委員会 副議長 鈴木 奏到 氏



パネルディスカッションの様子

◇会旗引継

大会の最後に、平塚市教育委員会吉野雅裕教育長から木下会長へ、木下会長から次期開催地の愛川町教育委員会佐藤照明教育長へ会旗が引き継がれました。

なお、第61回神奈川県公民館大会は、平成32年1月17日に愛川町文化会館ホールで開催されます。

(県公連事務局)



中井町井ノ口公民館

わが館、井ノ口公民館は中井町で唯一の公民館施設です。図書室機能を併せ持ち昭和63年に開館しました。

湘南軽便鉄道

現在町内に鉄道の駅はなく、小田急線の秦野駅とJR東海道本線の二宮駅とのちょうど中間の場所にあります。

しかし、明治から昭和にかけて秦野二宮間を葉タバコ運搬に「湘南軽便鉄道」が走っていた古き良き時代があり館内に小型の機関車を展示しています。



湘南軽便鉄道の模型

公民館まつり
趣味のサークルの登録45団体が活動し、日頃の活動の発表の場として毎年、2月の第3日曜日に「公民館まつり」を開催しています。ステージでは、コーラスグル

ープや大正琴、ハーモニカ演奏などが一堂に集まり盛り上がりつつ吹矢の体験や、町内出身のシンガー小澤紗来さんのスペシャルライブや町の公式キャラクターの「なかまる」も好評でした。



公式キャラクターなかまる

110周年記念事業

明治41年中井町が中村地区と井ノ口地区が合併して中井村として誕生し110周年の節目の年にあたり、記念事業を実施しました。子どもたちに読んでもらいたい本を町民や学校の先生から募集し、展示貸出を行いました。「中井っ子」に読ませたい110の本」事業は大変好評で思いのこもった本が、たくさんの子どもの手に届きました。

シイタケのホダ木づくり

町内の竹林里山整備を行って「なかい里山研究会」の協力により、シイタケのホダ木づくりの体験を行いました。青空のもとドリルを使い菌植を楽しみました。
(館長 加藤 洋一)

相模原市立東林公民館

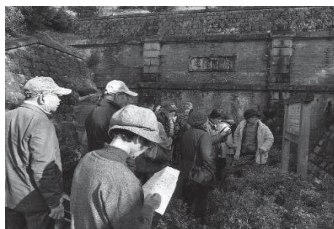
東林地区は相模原市の東南に位置し、西は座間市に、南は大和市に接しています。現在の人口は約4万1千人ですが、市制が施行された昭和29年当時は100世帯ほどの農村で、昭和30年代以降に宅地開発が進み、東京に通う会社員等が多く移住してきました。昭和40年頃には約19倍の1千900世帯に、そして現在では約210倍の2万1千世帯が暮らす住宅地に変貌しています。

地域を知り街づくりを考える

平成に入り、移住当時は30〜40歳代だった人たちが定年を迎える年代となり、地域や地域活動への関心を高めるようになってきました。東林公民館では、こうした変化を受け、平成22年度から「東林成人セミナー」をスタートさせ、8年間にわたって地域の成り立ちを知り今後のあり方を考える学習を積み重ねてきました。

水と川をテーマに暮らしを学ぶ

9年目の平成30年度は、準備委員が「相模原の水と川と人々の暮らし」のテーマを立て、8回の日程で学習を進めました。居住歴5〜50年の38名の受講者（男性20名、女性18名）からは、「飲み水も昭和29年によく水道にかわったことなど、相模原の水がなく、不自由だったことが良くわかった」「昭和36年頃に移住してきましたが、蛇口をひねれば水は使い放題でした。人の苦勞を感慨深く聞きました」などの感想が寄せられました。



城山隧道を見学する

住民主体のまちづくりに向けて平成31年度には10年目の節目の年を迎えます。ある受講者の「住みよい街づくりとは『現在住んでいる人が住みやすいと感じる町』『子どもたちが安心して楽しく過ごせる町』『家族が安心して楽しく健康で住める町』。今が街づくりの真ん中―伝えていく―」との視点が定着し、住民による主体的なまちづくりが一層広まることを期待しています。

(館長 渡邊 亮)

- 第1回(参加者17名) マップ作りをおして
- 第2回(参加者42名) 道・その変遷で地域を知る
- 第3回(参加者45名) 地域の発展と地産地消
- 第4回(参加者35名) 家ができ店ができてまちになる
- 第5回(参加者41名) 相模原・村から町へそして市へ
- 第6回(参加者31名) 未来につながる地域の変遷
- 第7回(参加者40名) みんなで目指そう安全な街づくり
- 第8回(参加者38名) 相模原土地と私たちの暮らし

過去8年間の学習テーマ

座間市立東地区文化センター

三島由紀夫さんもここにいた!?

座間市立東地区文化センターは国道246号線「文化センター前」交差点傍に位置します。近くには、日産自動車座間事業所、コストコ、ビバホームなどの工業・商業施設がありますが、これらはみな「高座海軍工廠」の跡地に建てられたもので、作家三島由紀夫さんもここに在籍していたとの逸話も残されています。

外国籍市民への支援とは?

こちらは近隣に自動車関連の工業施設があることもあり、外国籍住民の方も多く住まわれている地域でもあります。こうした事情を踏まえ、平成13年に当時の館長が「日本語ボランティア養成講座」を企画し、修了生の有志により日本語ボランティアサークル「そら」が誕生しました。現在16名の会員があり、毎週土曜日の午後には外国籍住民を対象に日本語指導を行っています。活動は文法中心の学習ではなく、発話を促す「おしゃべり型」を中心に行っているため、外国籍の方が笑顔でおしゃべりされている様子がとても印象的な日本語教室です。

定例活動の他に、館の子ども夏祭り、文化祭への参加や研修バスハイク、クリスマス会(写真参照)もされており、外国籍の方が日本

社会になじめるような取り組みにも積極的です。文化祭の模擬店で多国籍料理を販売されていますが、中国出身の方のつくる餃子は格別で、地域の方からも大変人気のメニューです。



クリスマス会の様子

グローバル時代に向けて

技能実習生の受け入れが今後拡大するなか、こうしたインクルーシブな活動が広がり、より柔軟で寛容な社会をつくり上げていくことが求められます。公民館としては日本語ボランティア養成講座の実施、会場確保の支援などさせていただいておりませんが、今後もより充実したボランティア活動をしていただけるように取り組んで参りたいと思っています。

(社会教育主事 西ヶ谷啓輔)

サークル紹介

『寒川拳(こぶし)の会』

～来週が待ち遠しい～

寒川町南部公民館

「寒川太極拳同好会拳の会」は、発足から32年になります。発足時のメンバーが現在2名在籍し、会員数30名を常にキープしながら、心身の健康維持と仲間づくりを目的に太極拳に励んでいます。毎年の「公民館まつり」にも積極的に参加し、活動を楽しみながら、まつりを盛り上げていきます。

練功十八法で身体をならし、太極拳についての要点を分かりやすく解説していただくこと、なるほど!」と思えますが、実際にやってみると実に難しいです。簡化24式・48式太極拳、32式太極剣、楊式規定とそれぞれに分けて練習します。最初は手まね足まねでどこもない体形ですが、講師に手取り足取りご指導いただくと、入会3か月〜6か月頃にはどうにか様になった形になってくるのを実感します。

「顔を上げて、目線は前方遠くへ:」「弧を描くように:」体内的の気血が四肢の末端まで行きわたっていくのが感じられたらしめたもの。太極拳には天地創

造の歴史があり思想・哲学がある等、小難しいことはさて置き、とにかく正しく学びたいと皆真剣です。

さらに、「無限太極拳協会」講師2名の非常に懇切丁寧な指導にも恵まれて、「なんとか講師の足元に近づきたい」と練習しています。約2時間がアツという間に過ぎてしまい、口々に「えー、もう終わり!!」と、いつも来週を待ち遠しく思っています。



寒川太極拳同好会拳の会
会員/随時募集

活動場所/寒川町南部公民館
活動日/月4回・金曜日
13時20分〜15時10分
指導/無限太極拳協会
(代表 白石典子)

第40回全国公民館 研究会東京大会

平成30年11月1日(木)と2日(金)の2日間、日本青年館ホールで公益社団法人全国公民館連合会主催の「第40回全国公民館研究会東京大会」が開催されました。参加者は1420名で、実行委員会委員長を神奈川県公民館連絡協議会顧問の神崎節生氏が務められたこともあり、わが県からも多くの公民館関係者が参加しました。今年度の全国公民館研究会は、7年に1度の首都圏開催の年に当たり、『公民館がひらく日本の未来』と地域性・個性を活かした新しい公民館活動を！というテーマとサブテーマで開催されました。

1日目の主な内容は特別講演とパネルディスカッションで、特別講演はジャーナリストの池上彰氏から「民主主義と公民館運動」というテーマでお話をいただきました。パネルディスカッションは「公民館がひらく 日本の未来」と題して行われ、パネリストには池上彰氏、文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官の塩見みづ枝氏、東京大学大学院教育学研究科教授の牧野篤氏、特定非営利活動法人教育支援協会代表理事の吉田博彦氏、そしてコーディネーターに全国公民館連合会理事でフ



池上彰氏による特別講演

表紙写真解説

『里都まち交流拠点』

(中井中央公園)

中井町の中心にある中井中央公園に、町内外や世代を問わず多くの方に交流と憩いの場として利用いただくために、「里都まち交流拠点」があります。

軽食やスイーツ・飲み物などを販売している「なかい里都まちカフェ」や直径2mの巨大なピザ釜と昔懐かしいかまどなど、料理ができる体験型施設「里都まちキッチン」や「里都まちキッズガーデン」や「里やま直売所」、パークゴルフ場など一日いても充分楽しめる施設となっています。

「里都まち」とは・・・

登録商標

都心から1時間足らず・多くの企業が立ち並び自律的な町を支える都市的空間と周囲には悠々とした暮らしが味わえる「里」と自然豊かな「山」里山が広がる。温暖な気候により豊かな恵みが味わえココロもカラダも癒される町。

平成31年度総会

(公民館館長・職員等研修会)

○日時

平成31年5月31日(金)

午後1時から

○会場

秦野市立堀川公民館

秦野市堀川203-1

○交通

小田急小田原線

渋沢駅から徒歩で約15分

渋沢駅または秦野駅から、

神奈川中央交通バスが

ご利用できます。

編集後記

平成最後に発行する「公民館かながわ」は、いかがだったでしょうか。この度紹介いただいた「里都まち交流拠点」の表紙写真解説は、本当にココロもカラダも癒されそうで、是非一度訪れてみたいですね。寄稿いただきました各施設の皆様に心より感謝申し上げます。これからも様々な情報をお寄せくださいますようお願いいたします。

【総務・広報部会】

宮館 政幸(川崎市)、加藤 洋一(中井町)

佐藤 勇(茅ヶ崎市)、青柳 典子(綾瀬市)

別府 拓自(寒川町)

沖野 僚太郎(湘南三浦教育事務所)

鈴木 智久(事務局)
